

事業所名		ハッピーテラス柏Ⅱ教室		公表日		2025年1月31日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動内容や利用児童の人数によっては、手狭になる日もあるため、必要に応じて相談室も活用しながら運営を行っている。	左記の通りの工夫で対応できているため、現状、課題等はないと考えている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		急病等で人員配置が適切でない場合は、同法人の他事業所の指導員等と連携しつつ、人員体制を整えている。	左記の工夫の結果、体制上、人員を下回る事は無いが、自事業所での人員の確保は継続して課題であると考えている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		教室体験などの際、体験児童のきょうだいがベビーカーで来所される際などは、指導員が1階までお迎えに行き、来所の補助を行うなどして対応している。	バリアフリー化に関しては、テナントの建物の構造上、改善が難しい部分がある。事前にご説明を実施することで、ご理解をいただけるよう尽力し、必要に応じて左記のように対応していく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		日々の清掃に加えて、空気清浄機や加湿器などを季節に合わせて稼働させている。	設備の経年劣化が目立つため、必要に応じて修繕や集中的な清掃、及び買い替えなどを行いながら環境設定に努めていきたい。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		家庭への電話や、気持ちが乱れた際のクールダウン、または疲労感に伴う一時的な休憩を行う際には、指導員に一声掛けた上で相談室を使用できる体制を整えています。	児童が一声かけることなく使用している場面が散見されるため、使用の際は指導員に一声かけるルールを改めてお伝えしていく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		指導員間で役割分担をし、各自の取り組み結果をもって、振り返りを行いつつ、業務量の調整等を行っている。	職務適性を考慮して役割分担を実施しているため、一部の職員しか取り組めない業務が重なる時期には、職員が業務過多となることがある。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的に保護者アンケートを行うのみでなく、お迎え時のフィードバックでお話を伺う機会を設けて、日々対応している。	保護者アンケートへのご回答が得られない場合や、お迎えに来られない保護者様からのご意見を反映させていくことが今後の課題であると感じている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的な教室会議やサービス提供時間前後の指導員間のやり取りを通じて、業務改善について多様な視点から意見を出し合っている。	集めた意見を収集しているが、一部の職員への業務引継ぎに不十分な点があることが今後の課題である。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現状、自事業所を対象とした実施はない。同法人の東京都の事業所については第三者評価を受けており、自事業所に照らし合わせて意見を収集している。	引き続き、左記の対応を行いながら、業務改善に努めていきたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		同法人内での研修に、職員の関心や役割に応じた参加機会を提供し、その場で学んだ内容に関しては、他の職員に向けて伝達する機会を設けて学びが全員に浸透するよう努めている。	教室運営の関係上、全員の参加は難しいため左記の対応で補っている。外部研修をより広く受講していけるようにしていくことが今後の課題である。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		本社一括で設定されているテーマをベースに据えつつ、独自の支援プログラムを指導員が個々に考えている。公表に関しては、ホームページ内のブログなどを活用して行っている。	指導員によって支援プログラムの内容に差異が生まれている。クオリティに関しては、誰が行っても一定の水準以上になるよう、引き続き努めていきたい。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		ニーズに応じて、公的な発達検査や知能検査を用いながら、アセスメントの一助として、個別支援計画を作成している。	児童が対象の事業所となるため、お子様のニーズが汲み取り難い場面が散見されている。そのため、保護者様のニーズに寄り添いつつも、様々な要素を考慮した計画の作成ができるようにしていく。	

適切な支援の提供	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者が定期的に現場に入り様子を確認した上で、指導員から最近の様子の詳細を聴き取りつつ、個別支援計画の原案を策定している。	左記の通りの工夫で対応できている。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		原案作成後の変更に関しては、保護者様のニーズに合わせて、計画を変更した旨を共有し、計画に沿った支援が行えるよう配慮している。	左記の通りの工夫で対応できている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		ニーズに応じて、公的な発達検査や知能検査を用いながら、アセスメントの一助として、個別支援計画を作成している。	フォーマルなアセスメントの浸透率に差異がある事が課題。特に発達検査に関しては、一定の期間を置いて繰り返しの実施が推奨されるため、支援内容の効果測定も兼ねて定期的に実施できる仕組みを作りたい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		お子様一人ひとりの、今に必要な支援を職員全員で検討の上、日々の活動内容の設定にあたっている。	本人支援が主となっており、直接的な家族支援に関しては、本人支援の延長線という間接的な形で設定せざるを得ない点が現状、課題である。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		その日のメイン指導員を中心に、他の指導員からも気になった点や、提案などをしながら、活動内容を作り上げている。	左記の通りの工夫で対応できている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		日によってメイン指導員を変更すると共に、内容を共有した上で、活動プログラムが固定化しないよう努めている。	題材によって類似した活動内容になる週もあるため、来所されるお子様によって、活動の狙いを変更するなど、細部の差異を際立たせていきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		お子様の状況に応じて、限定的にはあるが、個別での支援に関しても適宜対応している。	限定的な状態から、最終的に目的としている集団参加がなかなか達成されづらいことが現状の課題である。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		活動開始前に、メイン指導員が本日予定している活動内容の共有を行い、その中でサブ指導員の動きの確認も合わせて行っている。	突発的な事由を受けての対応変更や、メイン指導員の意図とは異なる形での連携や役割分担などが散見される。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		その日の活動の中であった出来事や気になった内容について、職員全員で共有の上、次回来所時に注意して見ていく必要のある内容などの確認を行っている。	左記の通りの工夫で対応できている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎日の支援提供終了後に記録を作成している。	作成者によって記録の内容に差が生じたり、業務によって当日中の記録作成が難しいことがある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		保護者面談の他、定期的に教室での活動時の様子などをまとめた短信を発行の上、モニタリングを行い、状態像に合わせた内容で個別支援計画を作成している。	左記の通りの工夫で対応できている。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		複数の要素を複合した活動内容や、コマ毎に別々の内容で構成するなどしながら努めている。	左記の通りの工夫で対応できている。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		ある程度自由度の高い活動内容の他、来所児童同士で話し合って活動内容を決定する、などの機会も提供している。	左記の通りの工夫で対応できている。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童との関わりが長い職員や、専門的知識を有している職員が主に参加している。	左記の通りの工夫で対応できている。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて、協力医療機関の他、相談支援事業所や地域の他事業所とも連携しながら日々の支援にあたっている。	左記の通りの工夫で対応できている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		必要に応じて、情報共有や学校訪問などを行っている。	左記の通りの工夫で対応できている。

関係機関 や保護者との 連携	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	同法人内では、密接に情報共有を行っている。	外部機関との連携に不十分な部分がある。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	他事業所利用の際や、進学の際などには必要に応じて支援内容等の情報を開示している。	左記の通りの工夫で対応できている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	現状、行えていない。	地域の事業所の集まりに参加するなどしながら、児童発達支援センターとの繋がりを深めていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	現状、行えていない。	地域のニーズがあった際、いつでも動けるように準備しておくと共に、どのような事業所のなかをより広く知っていただけるようにしていく。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	○	管理者が参加している。	左記の通り対応できている。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○	日々の活動終了後のフィードバックや、欠席連絡時等のお電話、定期的に行っている保護者面談などでのやり取りを介して共通理解に努めている。	お子様が一人で帰られるなど、来所機会の少ない保護者様との情報共有の機会を設けていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	現状、明確には行えていない。日々のフィードバックや定期的実施している保護者面談などでは、相談に乗り、必要に応じて情報提供や支援内容の提案などを行っている。	より家族支援に焦点を当てた取り組みの実施は一定以上のニーズがあることが予想されるため、どういった内容をお求めかについて、アンケートを取るなどしながら、情報を収集の上、対応していく。
保護者への 説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	主に契約時にご説明している他、変更が生じた際は、料金別紙を作成の上、提示しながら説明を行っている。	契約時は説明内容が多い上に、療育を行う事業所に慣れていない保護者様も多いため、慣れてきたタイミングや初の請求書を郵送するタイミングなどで仕組みを再度説明していく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	保護者様には定期的な保護者面談や、活動終了後のフィードバックでの聞き取りを、お子様に関しては活動や余暇時間の中で取り組んでいきたい内容について、適宜確認する機会を設けている。	左記の通りの工夫で対応できている。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	個別支援計画を提示の上、内容をご確認いただき、必要に応じて加筆・修正を行ったものを再提示するなどしながら同意をいただいている。	左記の通りの工夫で対応できている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	日々の活動終了後のフィードバックや、欠席連絡時等のお電話、定期的実施している保護者面談などの機会を活用して取り組んでいる。	左記の通りの工夫で対応できている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○	現状、行えていない。	一定以上のニーズがある事が予想されるため、どういった内容をお求めかについて、アンケートを取るなどしながら、情報を収集の上、対応していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	社内のフローに沿って対応している。	苦情の件数も関係しているが、対応者が限定しているため、有事の際に備えて誰でも差異無く対応できるよう理解を深めていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	郵送物で通信を送付している他、ホームページのブログ等でも活動内容や予定等を発信している。	左記の通りの工夫で対応できている。
43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	個別ファイルを鍵の掛かる棚に保管の上、事業所外では、ご利用者様に関連する話をしないなど、留意を徹底している。	左記の通りの工夫で対応できている。	

	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		日々の活動の中で、言葉での表現に加え、ジェスチャーや選択肢を提示することで、個々の事情に応じた方法で意思疎通を図っている。また、保護者様に関してもむやみに不安を喚起しないような表現を指導員間で共有し、場合によっては伝える対象を選ぶなど、配慮を行っている。	左記の通りの工夫で対応できている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		現状、行えていない。	どのような活動をしている事業所なのか、広く地域に知られていないため、まずはどのような事を行っている事業所なのかを地域に知っていただくようにしていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		定期的に開催される委員会を通して、話し合い、決定された内容を職員やご家族に対しても適宜周知を行いつつ、指導員は訓練を行っている。	左記の通りの工夫で対応できている。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		年に2回、お子様と一緒に避難訓練を実施している。	左記の通りの工夫で対応できている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		アレルギーや持病の発作など緊急性の高い内容に関しては契約時に確認し、その他や詳細に関しては緊急連絡票を作成の上、事業所内で保管している。	左記の通りの工夫で対応できている。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーに関しては、事前に確認の上、活動内容の中で極力取り扱わないようにしている。どうしても使用しなければならぬ際は、活動の案内の中に該当する食物の名前を明記している。	左記の通り対応しているが、食物アレルギーや嫌いな食材を取り扱うイベントに参加されるお子様が一定数いらっしゃり、作成するものの食べられないという場面が散見されている。直接的に内容が伝わりやすい発信方法に変更したり、事前に確認を徹底していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		委員会を通して全社的に作成された安全計画を基に、必要な研修・訓練を実施している。	左記の通りの工夫で対応できている。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		避難訓練等の予定に関しては、事前にご家庭に共有の上、実施している。	左記の通りの工夫で対応できている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		職員全員で共有の上、再発防止策を講じて再発防止に努めている。	左記の通りの工夫で対応できている。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		全社的に定期的に行われる研修を基に、伝達研修や自事業所について考える機会を設けている。	左記の通りの工夫で対応できている。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		対象の方がいらっしゃらないため、現状行っていない。	左記の通り、現状、対応の必要性があるお子様が在籍していないが、対応の必要性が生じた際を想定して、引き続き、対応の手順や内容などを確認の上、速やかに対応できる体制を構築していく。